

鳥取県の推計人口（年報）

【令和5年10月～令和6年9月】

令和6年12月16日公表

鳥取県総務部統計課

目 次

用語の説明	1
利用上の注意	2
調査結果の概要	
I 鳥取県の推計人口	
1 推計人口と世帯数	3
2 年齢3区分別人口	4
II 人口動態	
1 概況	7
2 自然動態	
(1) 自然動態の推移	7
(2) 月別自然動態	8
3 社会動態	
(1) 社会動態の推移	8
(2) 月别社会動態	9
(3) 都道府県別(外国を含む)、男女别社会動態	9
(4) ブロック別の県外転入・転出	11
(5) 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数	11
(6) 年齢5歳階級別、男女别社会動態	12
III 市町村別推計人口	
1 市町村別の推計人口	13
2 年齢3区分別人口	
(1) 年少人口	14
(2) 生産年齢人口	14
(3) 老年人口	14
IV 市町村別人口動態	
1 概況	15
2 自然動態	
(1) 市町村別自然動態	16
(2) 男女别自然動態	17
3 社会動態	
(1) 市町村别社会動態	18
(2) 県内移動	19
(3) 県外転入・県外転出	20
(4) 4市における年齢5歳階級別、男女别県外転入転出	21
<参考>外国人の人口動態	25

用語の説明

1 人口性比

女性人口を100としたときの男性人口の比率

2 年少人口

0歳～14歳の人口をいう。

3 生産年齢人口

15歳～64歳の人口をいう。

4 老年人口

65歳以上の人口をいう。

5 年少人口指数

年少人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

6 老年人口指数

老年人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

7 従属人口指数

年少人口と老年人口が生産年齢人口に対して占める比率をいう。

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

8 老年化指数

老年人口の年少人口に対する比率をいう。

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

9 動態

- (1) 人口動態…自然動態と社会動態を合わせた人口の動きをいう。
- (2) 自然動態…一定期間における出生及び死亡に伴う人口の動きをいう。
- (3) 社会動態…一定期間における転入及び転出に伴う人口の動きをいう。

10 移動

- (1) 移動者総数…県内移動者数(県内市町村間の転出入)と県外移動者数(県内外の転出入)を合計した数をいう。
- (2) 実移動者総数…県内市町村間の転入者数と県外移動者数を合計した数をいう。
- (3) 県内転入者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転入した者の数をいう。
- (4) 県内転出者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転出した者の数をいう。この調査の県内移動については、転入だけを調査している。このため転出については、従前の住所地(市町村)により、算出した数である。
- (5) 県外転入者数…県外(外国を含む)の市町村から県内の市町村へ転入した者の数をいう。
- (6) 県外転出者数…県内の市町村から県外(外国を含む)の市町村へ転出した者の数をいう。
- (7) 転入・転出超過数…転入者数から転出者数を差し引いた数で、プラスの場合を転入超過、マイナスの場合を転出超過という。

11 出生率及び死亡率

- (1) 出生率…人口に対する出生数の千分率(パーミル【‰】)をいう。
- (2) 死亡率…人口に対する死亡数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 2 移動者の年齢

令和6年10月1日現在の満年齢による。

1 3 自然増減数

出生者数から死亡者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは自然増加といい、マイナスは自然減少という。

1 4 自然増減率

人口に対する自然増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 5 社会増減数

転入者数から転出者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは社会増加といい、マイナスは社会減少という。

1 6 社会増減率

人口に対する社会増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 7 ブロック別区分

北海道…北海道

東 北…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関 東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中 部…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近 畿…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中 国…島根県、岡山県、広島県、山口県

四 国…徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九 州…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

1 8 地域別区分

東 部…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町

中 部…倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町

西 部…米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

1 9 市郡別

市 部…鳥取市、米子市、倉吉市、境港市

郡 部…岩美郡、八頭郡、東伯郡、西伯郡、日野郡

利 用 上 の 注 意

- 1 鳥取県人口移動調査は、「住民基本台帳法」の規定により届出された者を対象に、出生数及び死亡数、転入者数及び転出者数を、それぞれ住民票の異動日を基準として各月ごとに調査したものである。なお、県内移動については、転入日をもって転出日としている。
- 2 推計人口とは、令和2年国勢調査結果を基に、各市町村から報告のあった各月の調査結果より推計したものである。
- 3 平成27年国勢調査結果に毎月の転入者等の届出数を加減した令和2年10月1日現在の推計人口及び世帯数と、令和2年国勢調査結果に差が生じているので、平成27年国勢調査結果までさかのぼり、平成27年11月以降の推計値を補正している。
- 4 人口及び世帯の移動数は、令和5年10月から令和6年9月までの年間数値である。

調査結果の概要

I 鳥取県の推計人口

1 推計人口と世帯数

鳥取県の推計人口は531,085人で、前年に比べ6,233人減少し、平成8年以降29年連続の減少

令和6年10月1日現在の鳥取県の推計人口は531,085人で、前年に比べ6,233人減少した。

昭和50年(581,311人)以降の推移をみると、昭和63年の616,371人をピークに減少傾向となり、平成6年及び7年は増加したものの、平成8年以降は28年連続の減少となった。この間、平成20年に60万人台、平成22年に59万人台、平成25年に58万人台、平成28年に57万人台を割り、平成29年から平成30年は56万人台で推移し、令和元年では56万人台、令和3年では55万人台、令和5年では54万人台を割った。

男女別人口をみると、男性254,153人、女性276,932人で、人口性比は91.8であった。

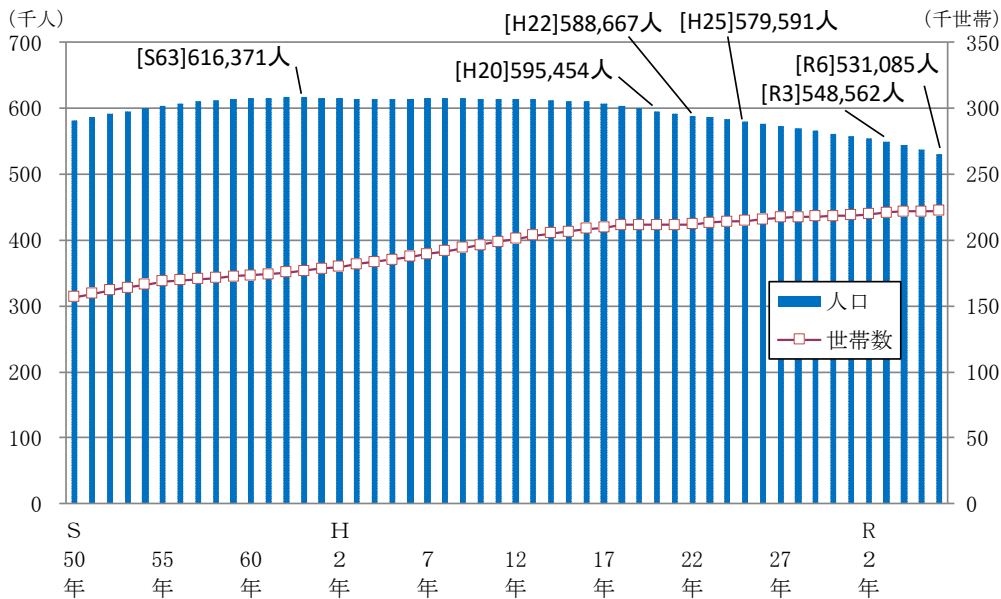
外国人の推計人口(国籍不詳を含む。以下同じ。)は10,759人(県の推計人口に占める割合は2.0%)で前年に比べ542人増加し、3年連続の増加となった。男女別にみると、男性4,706人、女性6,053人で、人口性比は77.7であった。

世帯数は、222,060世帯で、この1年間で280世帯増加した。

昭和50年(156,826世帯)以降増加が続き、平成12年では20万世帯を超え、令和6年では過去最大となった。1世帯当たりの人員は2.39で減少が続いている。

(図1、表1、表2、統計表第1表)

図1 人口と世帯数の推移



注1) 各年の人口は10月1日現在の人口による。

注2) 表示年は国勢調査実施年で国勢調査人口、その他の年は国勢調査を基準として推計した人口である。

表1 推計人口と世帯数(過去5年間の推移)

年	人口			対前年			人口性比	世帯数	1世帯当たりの人員	
	総数	男	女	総数	男	女				
R2年	553,407 9,428	264,432 4,045	288,975 5,383	-3,936 564	-1,902 288	-2,034 276	-0.71 6.36	91.5 75.1	219,742	2.52
R3年	548,562 9,230	262,227 3,973	286,335 5,257	-4,845 -198	-2,205 -72	-2,640 -126	-0.88 -2.10	91.6 75.6	220,693	2.49
R4年	543,615 9,716	260,026 4,255	283,589 5,461	-4,947 486	-2,201 282	-2,746 204	-0.90 5.27	91.7 77.9	221,648	2.45
R5年	537,318 10,217	257,165 4,465	280,153 5,752	-6,297 501	-2,861 210	-3,436 291	-1.16 5.16	91.8 77.6	221,780	2.42
R6年	531,085 10,759	254,153 4,706	276,932 6,053	-6,233 542	-3,012 241	-3,221 301	-1.16 5.30	91.8 77.7	222,060	2.39

注1) 下段は外国人で内数
注2) 外国人は国籍不詳を含む。

2 年齢3区分別人口

老年人口は、163人減少し、2年連続の減少
 年齢3区分別の構成割合は、年少人口は12.0%、生産年齢人口は54.1%で、
 ともに過去最低、老年人口は33.9%で過去最高

年齢3区分別にみると、年少人口は62,679人で前年（令和5年10月1日現在）に比べ1,701人減少、生産年齢人口は283,126人で4,369人減少、老年人口は177,251人で163人減少した。（年齢3区分人口に年齢不詳は含まない。以下同じ。）

昭和50年以降の推移をみると、年少人口は昭和60年の130,668人をピークに減少に転じ、平成12年に10万人を割り減少が続いている。生産年齢人口は昭和60年の400,717人をピークに、以降減少が続いている。老年人口は平成7年に11万人台、平成28年からは17万人台となり増加傾向であるが、令和6年は2年連続の減少となった。

人口構成割合を前年と比べると、年少人口は12.0%で0.2ポイント低下し、生産年齢人口は54.1%で0.2ポイント低下し、ともに過去最低となった。老年人口は33.9%で0.4ポイント上昇し、過去最高となった。

年齢構成指数を前年と比べると、生産年齢人口の扶養負担程度を表す従属人口指数（年少人口と老年人口の合計の生産年齢人口に対する比率）は84.7で0.6ポイント上昇、年少人口指数（年少人口の生産年齢人口に対する比率）は22.1で0.3ポイント低下、老年人口指数（老年人口の生産年齢人口に対する比率）は62.6で0.9ポイント上昇した。

また、老年化指数（老年人口の年少人口に対する比率）は282.8で7.2ポイント上昇し、老年人口指数、従属人口指数及び老年化指数は過去最高となった。
 （図2、図3、図4-1、図4-2、表2、表3、統計表第1表）

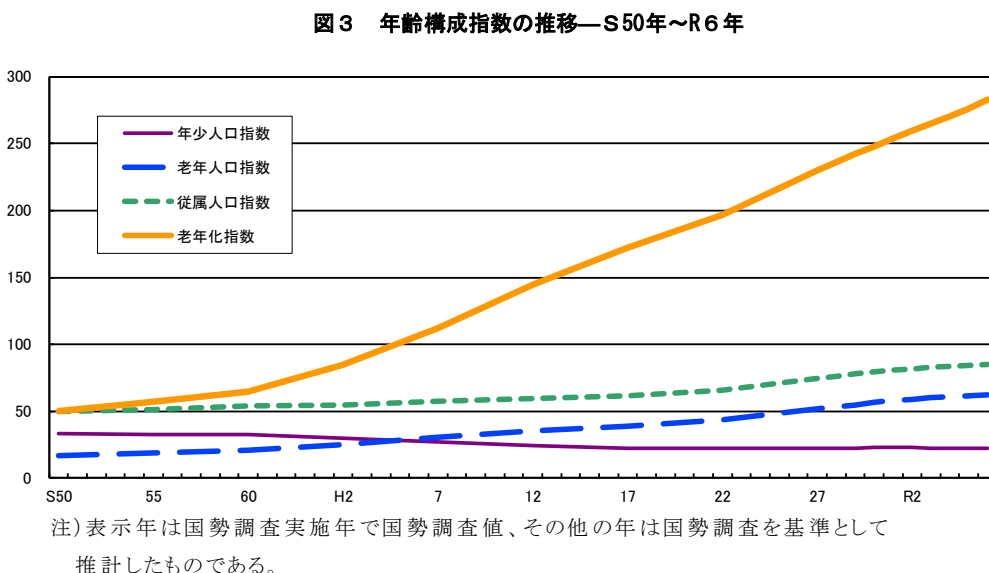
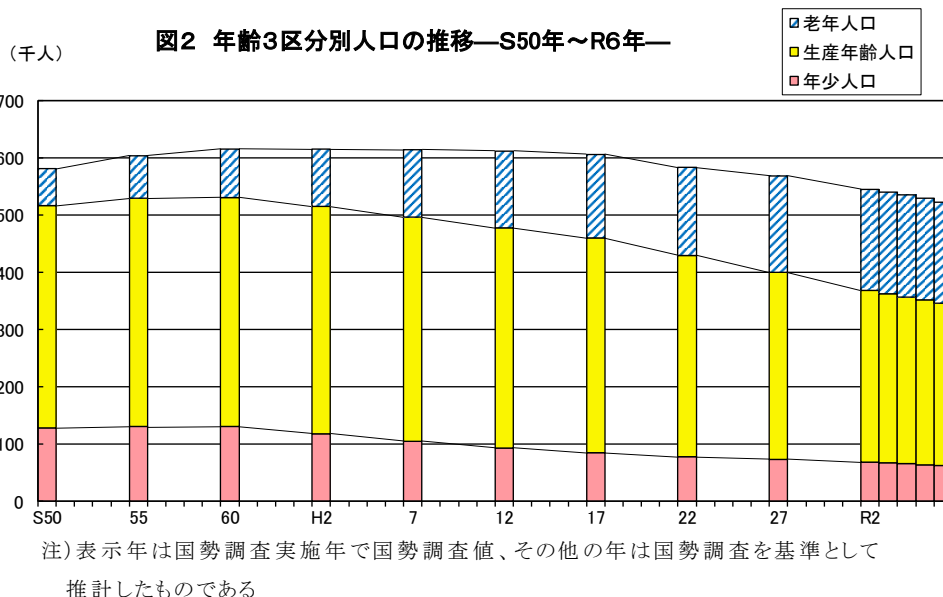


図4-1 人口ピラミッド

県全体 531,085人

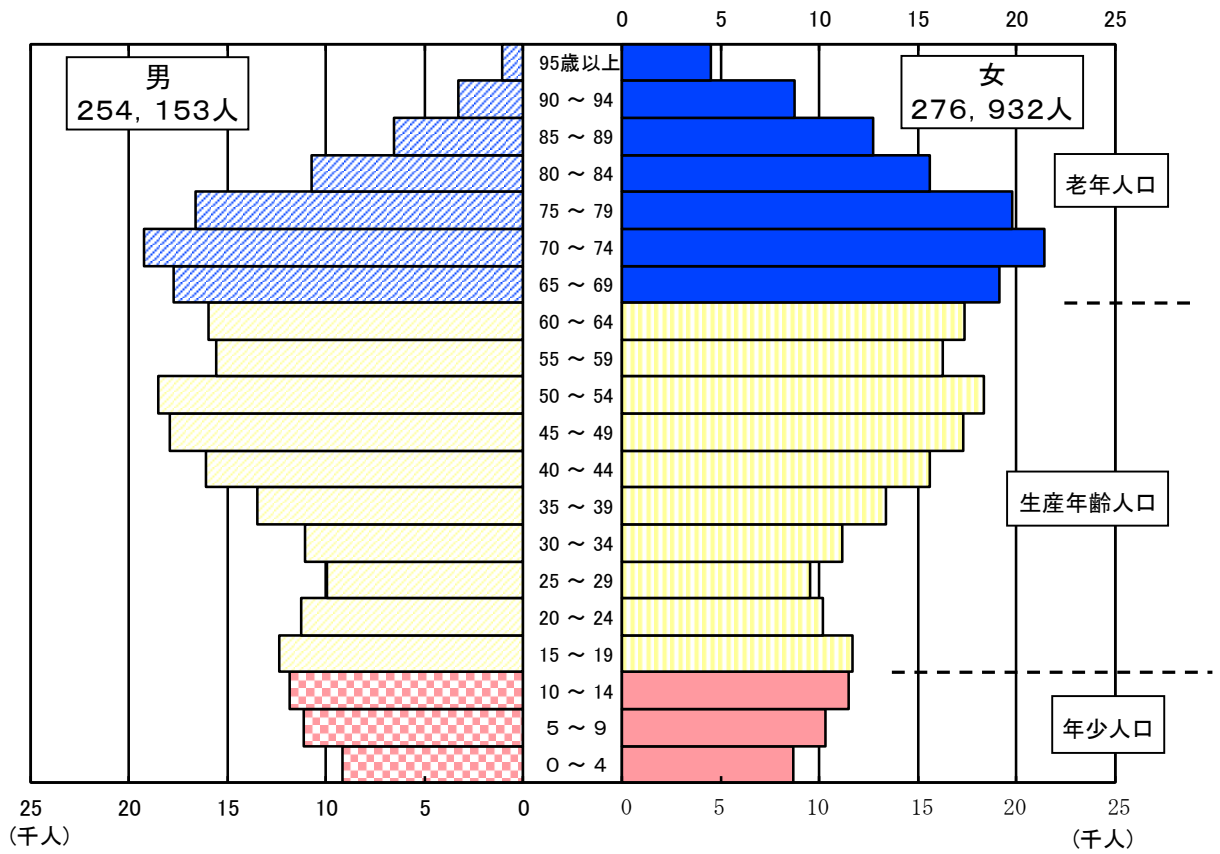
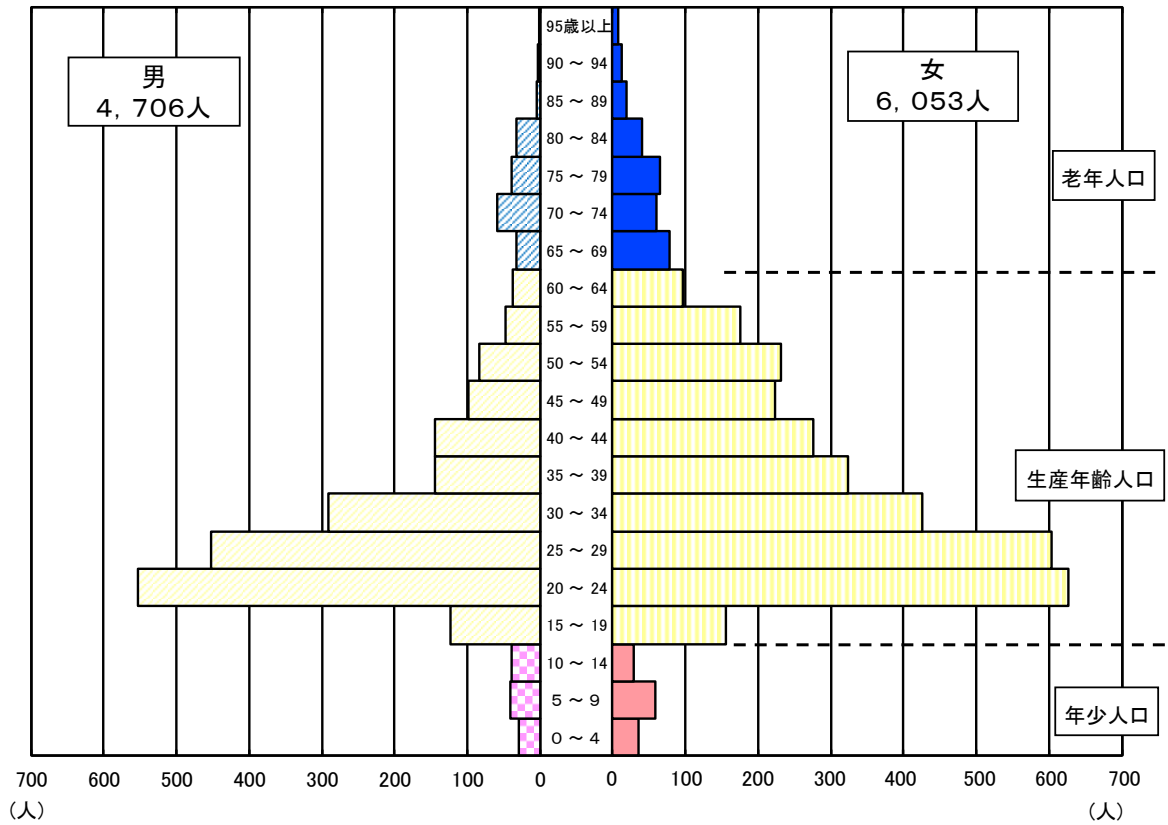


図4-2 人口ピラミッド(外国人)

県全体 10,759人



注) 外国人は国籍不詳を含む

表2 年齢5歳階級別人口

(単位:人)

年齢	総人口				うち外国人人口			
	総数	男	女	人口性比	総数	男	女	人口性比
総数	531,085	254,153	276,932	91.8	10,759	4,706	6,053	77.7
0～4歳	17,825	9,152	8,673	105.5	64	29	35	82.9
5～9	21,485	11,149	10,336	107.9	99	41	58	70.7
10～14	23,369	11,849	11,520	102.9	68	39	29	134.5
15～19	24,024	12,346	11,678	105.7	279	123	156	78.8
20～24	21,444	11,251	10,193	110.4	1,179	553	626	88.3
25～29	19,536	9,965	9,571	104.1	1,056	453	603	75.1
30～34	22,259	11,090	11,169	99.3	716	291	425	68.5
35～39	26,879	13,492	13,387	100.8	467	144	323	44.6
40～44	31,720	16,124	15,596	103.4	421	145	276	52.5
45～49	35,256	17,925	17,331	103.4	321	98	223	43.9
50～54	36,883	18,506	18,377	100.7	315	84	231	36.4
55～59	31,816	15,581	16,235	96.0	223	48	175	27.4
60～64	33,309	15,954	17,355	91.9	135	38	97	39.2
65～69	36,880	17,752	19,128	92.8	111	33	78	42.3
70～74	40,661	19,254	21,407	89.9	119	59	60	98.3
75～79	36,440	16,647	19,793	84.1	104	39	65	60.0
80～84	26,412	10,765	15,647	68.8	74	33	41	80.5
85～89	19,249	6,528	12,721	51.3	24	5	19	26.3
90～94	12,048	3,283	8,765	37.5	16	3	13	23.1
95歳以上	5,561	1,067	4,494	23.7	9	2	7	28.6
不詳	8,029	4,473	3,556	125.8	4,959	2,446	2,513	97.3

注 1) 外国人は国籍不詳を含む。

注 2) 各歳別に年齢不詳は含まない。

表3 年齢3区分別人口

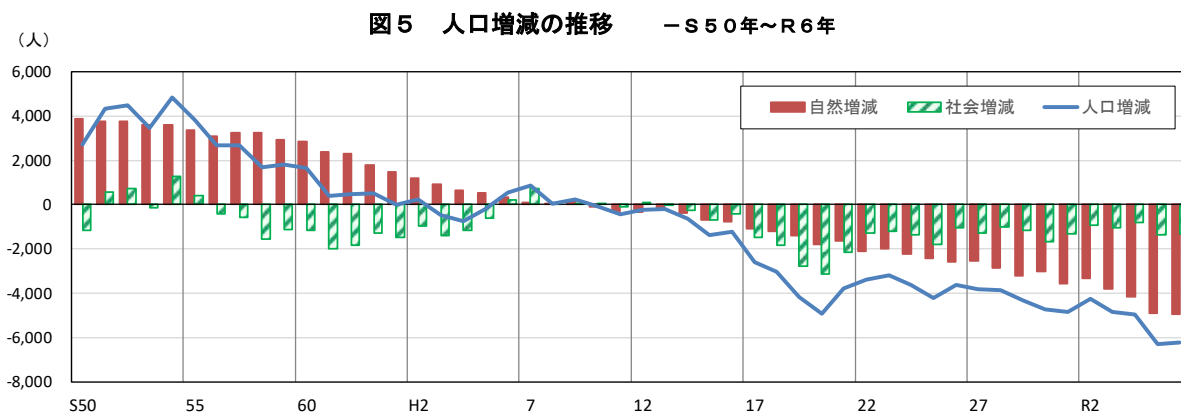
(単位:人、%)

年齢	総人口		うち外国人人口	
	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合
年少人口(0～14歳)	62,679	12.0	231	4.0
生産年齢人口(15～64歳)	283,126	54.1	5,112	88.1
老年人口(65歳以上)	177,251	33.9	457	7.9
うち75歳以上	99,710	19.1	227	3.9

II 人口動態

1 概況

令和6年（令和5年10月～令和6年9月）の1年間の人口動態をみると、自然増減は4,931人の減少、社会増減は1,302人の減少で、合計6,233人の減少となり、人口増減の減少幅は前年に比べ64人縮小した。（図5、統計表第3表）



注)各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

2 自然動態

(1) 自然動態の推移

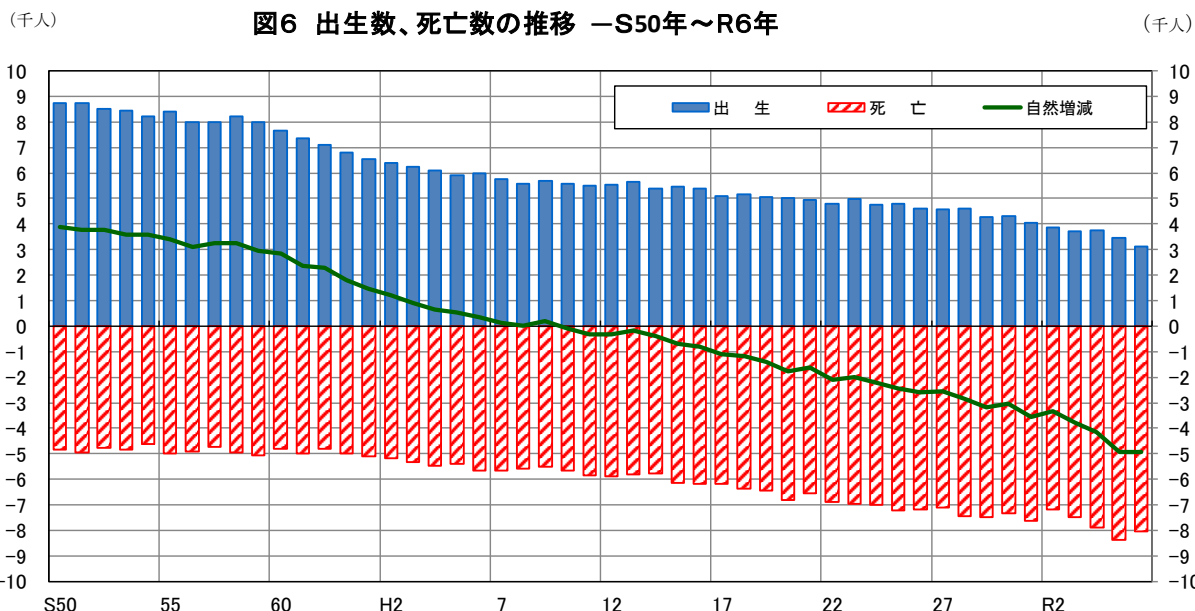
出生数は3,125人となり、昭和50年以降で過去最少を更新
 死亡数は8,056人となり、2年連続で8,000人を超過
 自然増減は、4,931人減少し、平成10年以降27年連続の減少

出生数は、令和6年は3,125人で前年に比べ337人減少し、過去最少を更新した。

昭和50年の8,735人から概ね減少傾向であり、昭和63年に7,000人を割り込み6,000人台となり、平成5年に5,000人台、平成21年に4,000人台、令和2年からは3,000人台となっている。

死亡数は、平成2年ごろまでは5,000人前後で推移していたが、それ以降は増加傾向となり、平成15年には6,000人台、平成25年に7,000人台、令和5年に8,000人台となり、令和6年は8,056人で前年に比べ325人減少したが、2年連続8,000人を超過した。

自然増減は4,931人の減少となり、減少幅は前年に比べ12人拡大し、平成10年以降27年連続の減少となった。（図6、統計表第3表）



注)各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

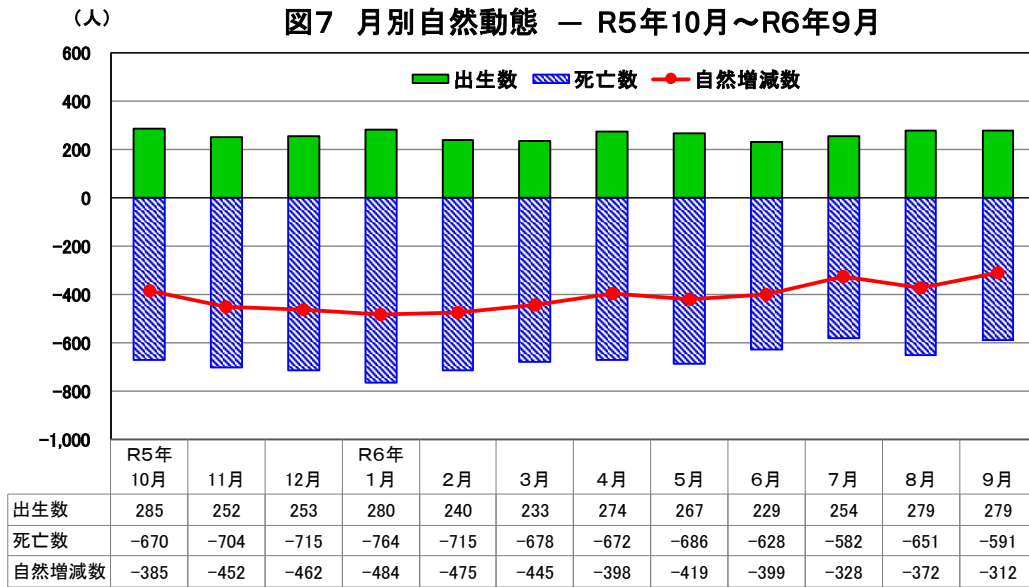
(2) 月別自然動態

自然増減はすべての月で減少となり、1月の減少数が最も多い

月別にみると、出生数は令和5年10月の285人（出生総数に占める割合9.1%）が最も多く、次いで令和6年1月の280人（同9.0%）、令和6年8月及び9月の279人（同8.9%）であった。

死亡数は令和6年1月の764人（死亡総数に占める割合9.5%）が最も多く、次いで令和5年12月及び令和6年2月の715人（同8.9%）、令和5年11月の704人（同8.7%）であった。

自然増減数はすべての月で減少となり、減少数は令和6年1月の484人が最も多かった。（図7、統計表第4表）



3 社会動態

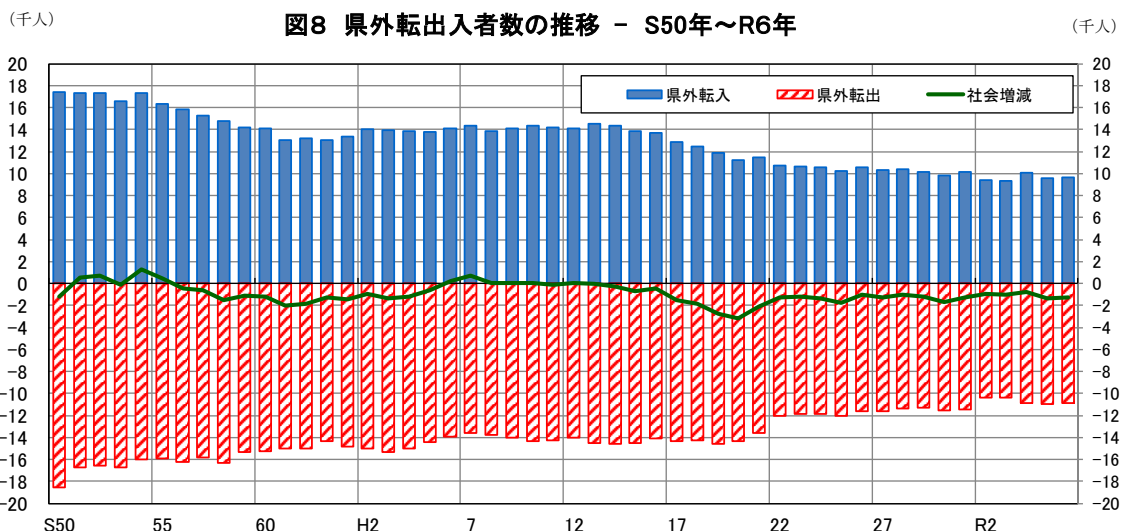
(1) 社会動態の推移

社会増減は、1,302人の減少となり、平成13年以降24年連続の減少

令和6年（令和5年10月～令和6年9月）1年間の県外転入者は9,616人、県外転出者は10,918人で、社会増減は1,302人の減少となった。県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は5,241人で実移動者総数は25,775人であった。

前年と比べると、県外転入者が4人増加、県外転出者が72人減少し、社会増減の減少数が76人縮小した。また、県内移動者が301人減少し、実移動者総数が369人減少した。

社会動態の推移をみると、昭和50年以降転入・転出ともに減少傾向となり、社会増減数は平成13年以降24年連続の減少となった。（図8、統計表第3表、統計表第7表）



注) 各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

(2) 月別社会動態

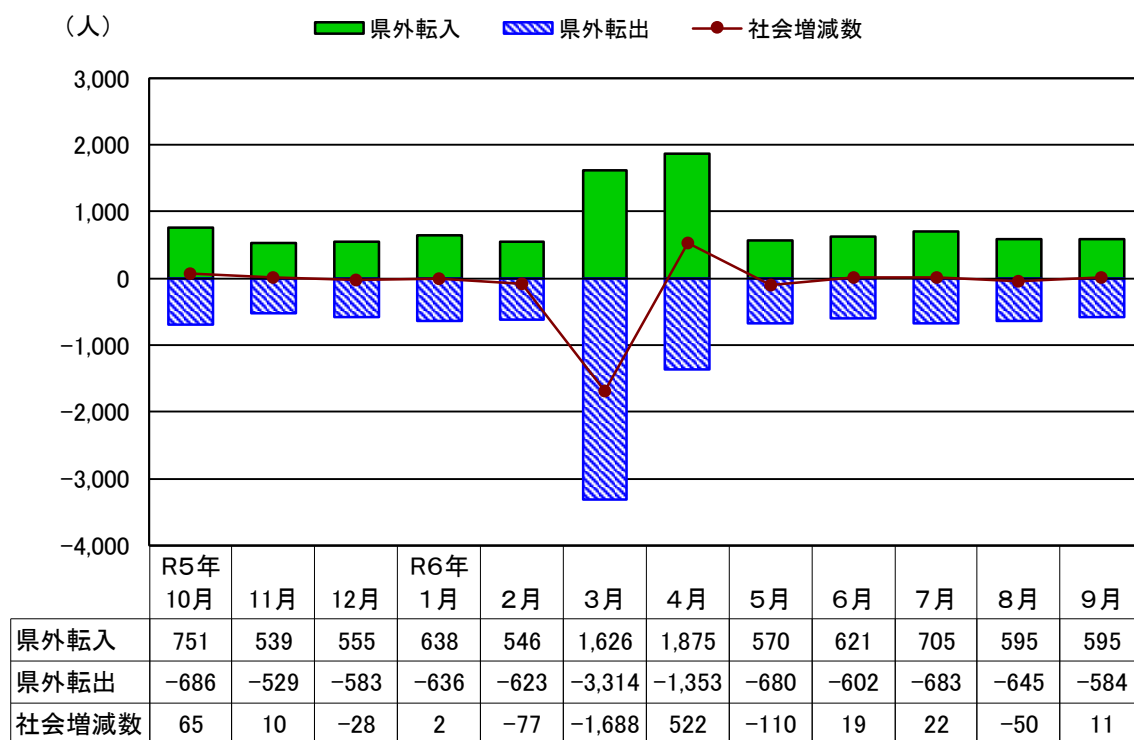
3月及び4月の2か月間で、年間県外移動者総数の39.8%を占める。

月別にみると、県外転入者は令和6年4月の1,875人（県外転入者総数に占める割合19.5%）が最も多く、次いで令和6年3月の1,626人（同16.9%）、令和5年10月の751人（同7.8%）であった。

県外転出者は令和6年3月の3,314人（県外転出者総数に占める割合30.4%）が最も多く、次いで令和6年4月の1,353人（同12.4%）、令和5年10月の686人（同6.3%）であった。

この結果、令和6年4月が522人増加し、令和6年3月が1,688人減少し、この2か月間で年間県外移動者総数の39.8%を占めている。（図9、統計表第6表）

図9 月別県外転出入者数 — R5年10月～R6年9月



(3) 都道府県別（外国を含む）、男女別社会動態

県外転入者数は外国の1,431人、県外転出者数は大阪府の1,294人が最も多い

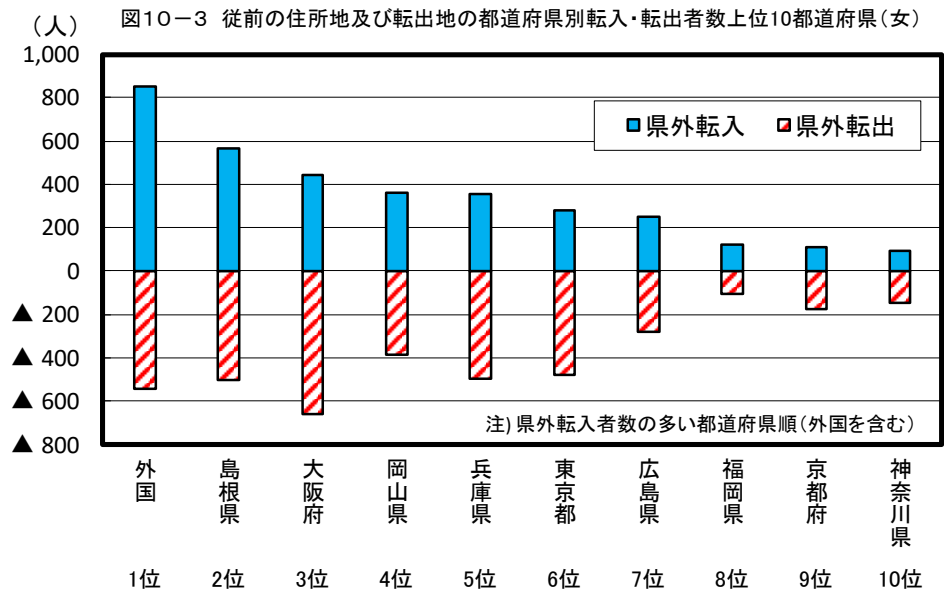
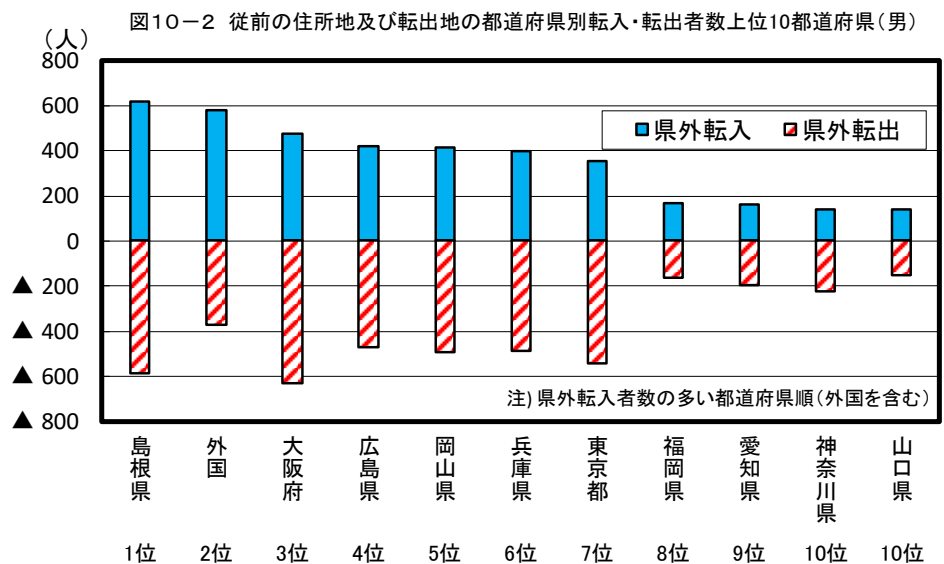
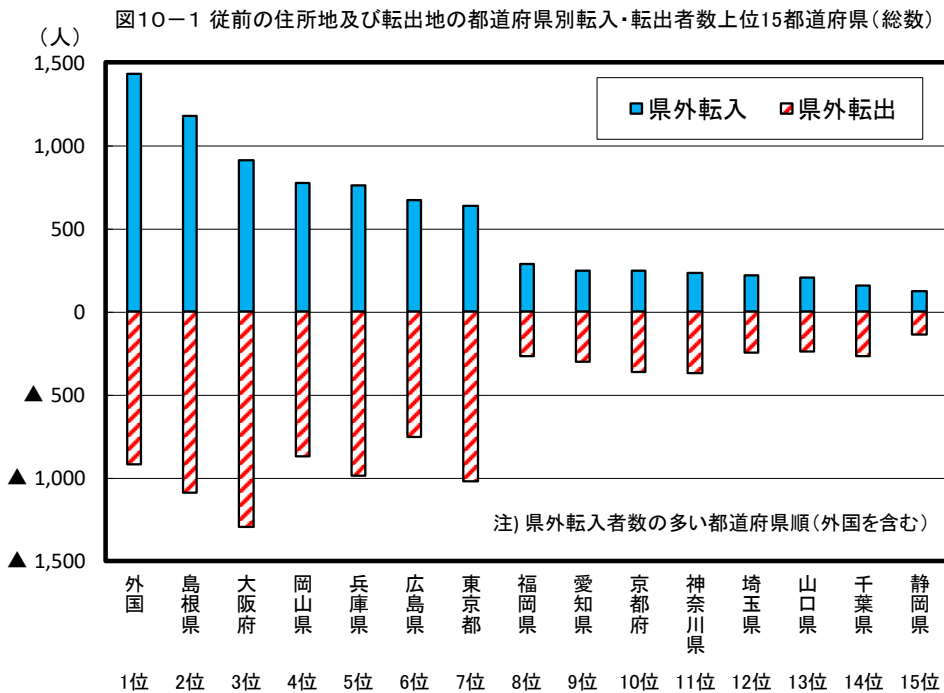
都道府県別（外国を含む）にみると、県外転入者は外国の1,431人（男性580人、女性851人）が最も多く、次いで島根県の1,181人（男性618人、女性563人）、大阪府の915人（男性473人、女性442人）であった。

県外転出者は大阪府の1,294人（男性632人、女性662人）が最も多く、次いで島根県の1,088人（男性587人、女性501人）、東京都の1,020人（男性542人、女性478人）であった。

また、男女別にみると、男性の県外転入者は島根県の618人が最も多く、次いで外国の580人、大阪府の473人であり、県外転出者は大阪府の632人が最も多く、次いで島根県の587人、東京都の542人であった。

女性の県外転入者は外国の851人が最も多く、次いで島根県の563人、大阪府の442人であり、県外転出者は大阪府の662人が最も多く、次いで外国の543人、島根県の501人であった。

（図10-1、図10-2、図10-3、統計表第14表）



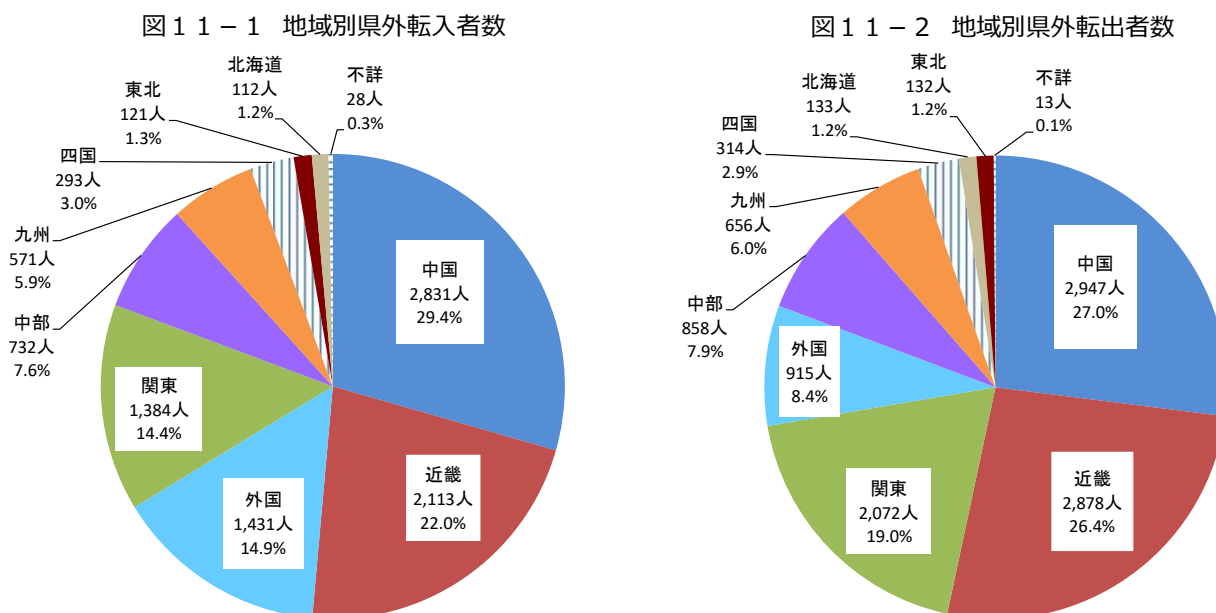
(4) ブロック別の県外転入・転出

ブロック別の県外転入・転出者数とも中国ブロックが最多で、次いで近畿ブロック

ブロック別にみると、県外転入者は中国ブロックの2,831人(男性1,591人、女性1,240人)が最も多く、次いで近畿ブロックの2,113人(男性1,124人、女性989人)、外国の1,431人(男性580人、女性851人)であった。

県外転出者は中国ブロックの2,947人(男性1,701人、女性1,246人)が最も多く、次いで近畿ブロックの2,878人(男性1,435人、女性1,443人)、関東ブロックの2,072人(男性1,150人、女性922人)であった。

(図11-1、図11-2、統計表第14表)



注)全国地域区分別の構成都道府県は、以下のとおり。

- 北海道:北海道
- 東北:青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- 関東:茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
- 中部:新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
- 近畿:滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- 中国:島根、岡山、広島、山口
- 四国:徳島、香川、愛媛、高知
- 九州:福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

(5) 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数

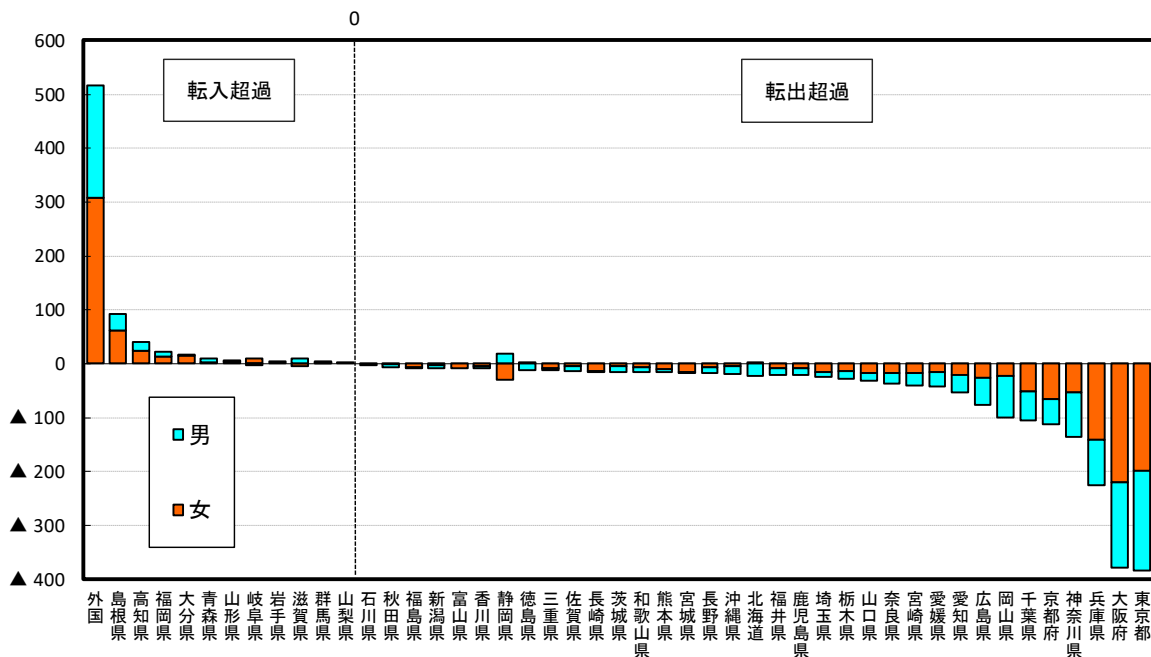
転入超過数は外国の516人、転出超過数は東京都の384人が最も多い

転入超過数は、外国の516人(男性208人、女性308人)が最も多く、次いで島根県の93人(男性31人、女性62人)、高知県の41人(男性16人、女性25人)であった。

転出超過数は、東京都の384人(男性185人、女性199人)が最も多く、次いで大阪府の379人(男性159人、女性220人)、兵庫県の225人(男性84人、女性141人)であった。

(図12、統計表第14表)

図12 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数(男女別)



(6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態

65歳以上が最も増加し、20～24歳が最も減少

年齢5歳階級別にみると、県外転入者は男女とも20～24歳が最も多く(男性1,140人: 男性の県外転入者総数に占める割合が21.9%、女性950人: 女性の県外転入者総数に占める割合が21.5%)、次いで男女とも25～29歳(男性826人: 同15.9%、女性805人: 同18.2%)であった。

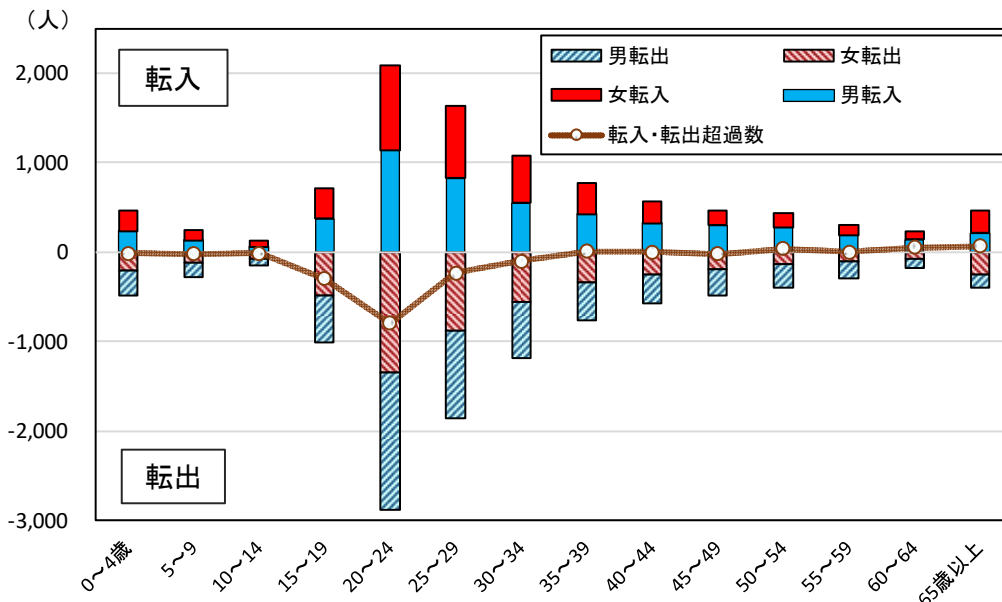
県外転出者は男女とも20～24歳が最も多く(男性1,535人: 男性の県外転出者総数に占める割合が26.0%、女性1,349人: 女性の県外転出者総数に占める割合が26.9%)、次いで男女とも25～29歳(男性991人: 同16.8%、女性872人: 同17.4%)であった。

県外転入転出により、65歳以上が最も増加(71人: 男性72人、女性-1人)、20～24歳が最も減少(794人: 男性395人、女性399人)した。

年間県外移動者総数をみると、20～34歳で10,724人となり、全体(20,534人)の52.2%を占めている。

(図13、統計表第7表、第15表)

図13 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数



Ⅲ 市町村別推計人口

1 市町村別の推計人口

推計人口が最も多いのは鳥取市の182,207人、最も少ないのは江府町の2,383人

市郡別にみると、市部の推計人口は401,596人（男性192,505人、女性209,091人：県人口に占める割合75.6%）で、郡部の推計人口は129,489人（男性61,648人、女性67,841人：同24.4%）であった。

市部で推計人口が最も多いのは、鳥取市の182,207人（男性88,477人、女性93,730人：同34.3%）で、次いで米子市の144,004人（男性68,284人、女性75,720人：同27.1%）であった。

郡部で推計人口が最も多いのは、湯梨浜町の15,526人（男性7,410人、女性8,116人：同2.9%）で、次いで琴浦町の15,176人（男性7,182人、女性7,994人：同2.9%）であった。

また、最も少ないのは、江府町の2,383人（男性1,103人、女性1,280人：同0.4%）で、次いで若桜町の2,493人（男性1,195人、女性1,298人：同0.5%）であった。

（表4、統計表第8表、第8-1表）

表4 市町村別年齢3区分別人口と世帯数（過去5年間の推移）

（単位：人、世帯）

区分	総人口					年齢3区分別人口			世帯数	1世帯当たりの人員
	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	年少人口	生産年齢人口	老年人口		
市計	415,007	412,220	409,539	405,503	401,596	48,206	220,491	125,026	173,211	2.32
郡計	138,400	136,342	134,076	131,815	129,489	14,473	62,635	52,225	48,849	2.65
東部地区	224,492	222,529	220,709	218,036	215,491	25,007	117,041	69,861	91,206	2.36
中部地区	99,193	97,932	96,631	95,175	93,637	11,233	47,494	34,380	36,875	2.54
西部地区	229,722	228,101	226,275	224,107	221,957	26,439	118,591	73,010	93,979	2.36
鳥取市	188,465	187,238	186,045	184,132	182,207	21,566	101,076	55,992	78,450	2.32
米子市	147,317	146,753	146,148	145,121	144,004	17,981	79,794	42,514	63,403	2.27
倉吉市	46,485	45,828	45,227	44,480	43,828	5,058	22,481	15,848	18,072	2.43
境港市	32,740	32,401	32,119	31,770	31,557	3,601	17,140	10,672	13,286	2.38
岩美町	10,799	10,655	10,531	10,394	10,271	1,144	5,061	4,061	4,016	2.56
若桜町	2,864	2,767	2,661	2,558	2,493	150	1,030	1,312	1,126	2.21
智頭町	6,427	6,251	6,116	5,939	5,825	506	2,591	2,728	2,355	2.47
八頭町	15,937	15,618	15,356	15,013	14,695	1,641	7,283	5,768	5,259	2.79
三朝町	6,060	5,915	5,777	5,657	5,511	529	2,658	2,310	2,122	2.60
湯梨浜町	16,055	15,945	15,880	15,705	15,526	2,189	8,126	5,161	5,859	2.65
琴浦町	16,365	16,066	15,763	15,513	15,176	1,742	7,516	5,916	5,746	2.64
北栄町	14,228	14,178	13,984	13,820	13,596	1,715	6,713	5,145	5,076	2.68
日吉津村	3,501	3,532	3,543	3,588	3,562	529	1,979	1,025	1,304	2.73
大山町	15,370	15,110	14,774	14,498	14,243	1,520	6,744	5,979	5,076	2.81
南部町	10,323	10,208	10,066	9,989	9,844	1,054	4,906	3,880	3,541	2.78
伯耆町	10,696	10,590	10,354	10,221	10,100	1,167	4,654	4,256	3,674	2.75
日南町	4,196	4,090	3,974	3,828	3,707	249	1,386	2,070	1,644	2.25
日野町	2,907	2,822	2,790	2,667	2,557	154	1,023	1,380	1,121	2.28
江府町	2,672	2,595	2,507	2,425	2,383	184	965	1,234	930	2.56

2 年齢3区分別人口

(1) 年少人口

前年と比べると、年少人口は19市町村すべてで減少
年少人口割合は14市町で低下

年少人口は鳥取市の21,566人が最も多く、次いで米子市の17,981人であった。

前年と比べると、19市町村すべてで減少した。

年少人口割合は日吉津村の15.0%が最も高く、次いで湯梨浜町の14.1%であった。

前年と比べると、日吉津村、大山町及び日南町で上昇し、岩美町及び八頭町で同水準、鳥取市など14市町で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

(2) 生産年齢人口

前年と比べると、生産年齢人口は19市町村すべてで減少
生産年齢人口割合は17市町村で低下

生産年齢人口は鳥取市の101,076人が最も多く、次いで米子市の79,794人であった。

前年と比べると、19市町村すべてで減少した。

生産年齢人口割合は米子市の56.9%が最も高く、次いで鳥取市の56.6%であった。

前年と比べると、境港市及び若桜町で同水準、鳥取市など17市町村で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

(3) 老年人口

前年と比べると、老年人口は5市町村で増加、北栄町で増減なし、その他の市町で減少
老年人口割合は18市町村で上昇

老年人口は鳥取市の55,992人が最も多く、次いで米子市の42,514人であった。

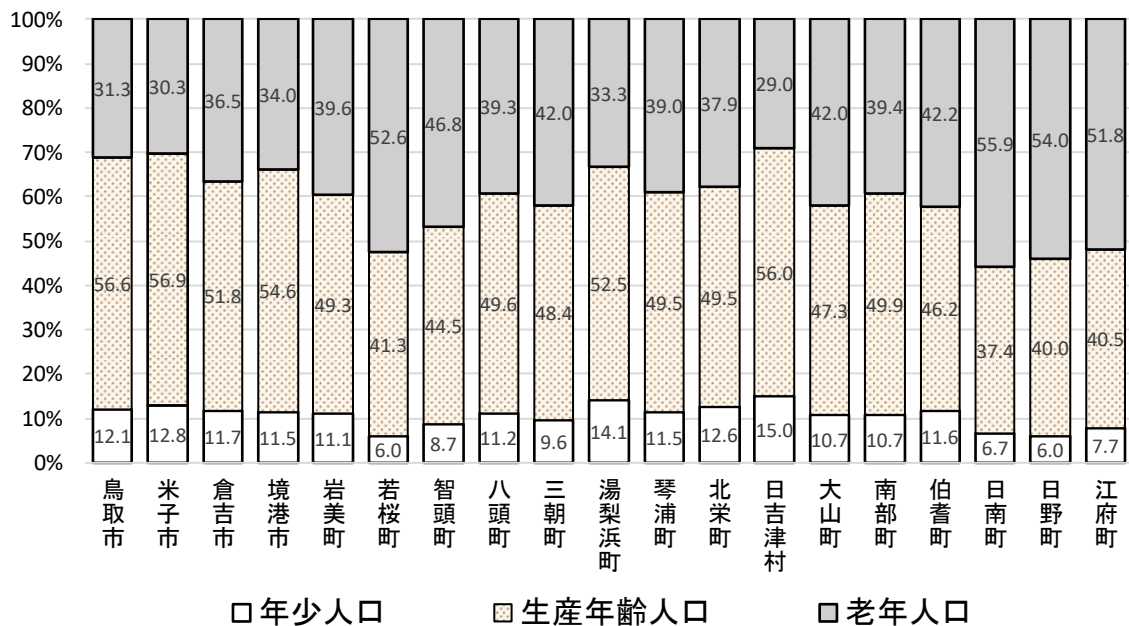
前年と比べると、鳥取市で189人、米子市で45人、岩美町で18人、伯耆町で5人及び日吉津村で3人増加、北栄町で増減なし、その他の市町で減少した。

老年人口割合は日南町の55.9%が最も高く、次いで日野町の54.0%であった。

前年と比べると、鳥取市など18市町村で上昇し、若桜町で同水準であった。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

図14 市町村別年齢3区分別人口割合



IV 市町村別人口動態

1 概況

人口増減は、19市町村すべてで減少

令和6年（令和5年10月～令和6年9月）1年間の市町村別の人口増減をみると、19市町村すべてで減少し、そのうち最も減少したのは鳥取市の1,925人（自然減少1,377人、社会減少548人）、次いで米子市の1,117人（自然減少855人、社会減少262人）であった。

また、増減率をみると、19市町村すべてで減少し、最も減少したのは日野町の4.12%、次いで日南町の3.16%、三朝町の2.58%であった。（表5、統計表第8表）

表5 市町村別人口増減

（単位：人）

	自然増減			社会増減			人口増減数
	出生数	死亡数	増減数	転入者数	転出者数	増減数	
県計	3,125	8,056	-4,931	14,857	16,159	-1,302	-6,233
鳥取市	1,025	2,402	-1,377	4,304	4,852	-548	-1,925
米子市	1,041	1,896	-855	4,775	5,037	-262	-1,117
倉吉市	253	731	-478	1,191	1,365	-174	-652
境港市	192	492	-300	1,133	1,046	87	-213
岩美町	51	181	-130	295	288	7	-123
若桜町	7	66	-59	63	69	-6	-65
智頭町	15	137	-122	193	185	8	-114
八頭町	58	279	-221	298	395	-97	-318
三朝町	17	122	-105	103	144	-41	-146
湯梨浜町	112	273	-161	493	511	-18	-179
琴浦町	66	311	-245	408	500	-92	-337
北栄町	65	225	-160	318	382	-64	-224
日吉津村	28	39	-11	149	164	-15	-26
大山町	74	328	-254	358	359	-1	-255
南部町	38	165	-127	283	301	-18	-145
伯耆町	51	168	-117	274	278	-4	-121
日南町	18	104	-86	79	114	-35	-121
日野町	6	76	-70	56	96	-40	-110
江府町	8	61	-53	84	73	11	-42

2 自然動態

(1) 市町村別自然動態

自然増減は、19市町村すべてで減少

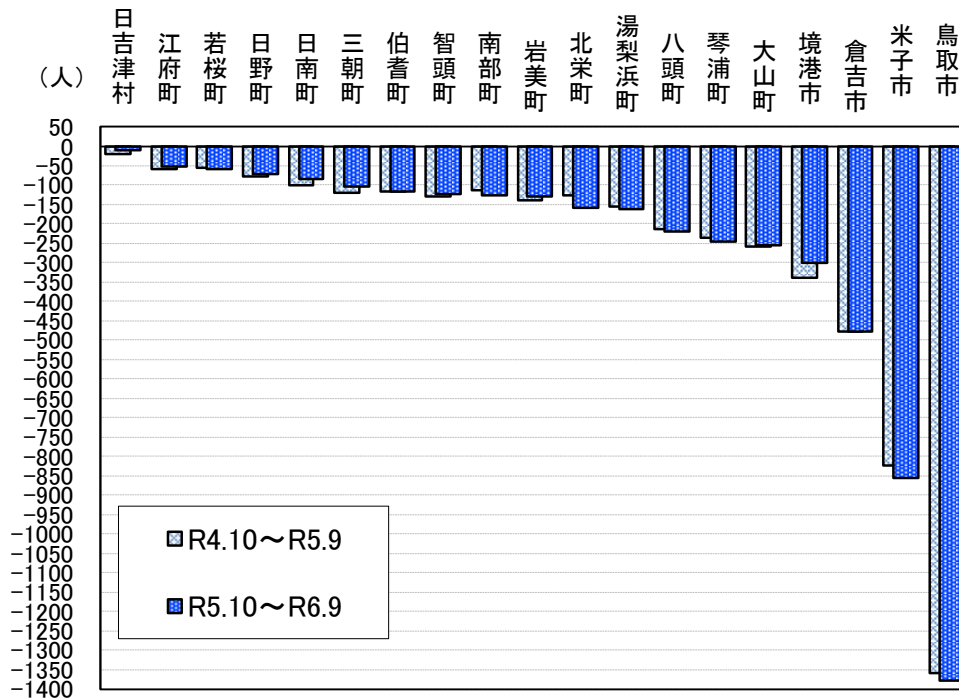
自然増減を市町村別にみると、19市町村すべてで減少した。

最も減少したのは鳥取市の1,377人（出生数1,025人、死亡数2,402人）、次いで米子市の855人（出生数1,041人、死亡数1,896人）であった。

自然増減率（対1,000人比）をみると、19市町村すべてで減少し、最も減少したのは日野町の26.25%、次いで若桜町の23.06%であった。

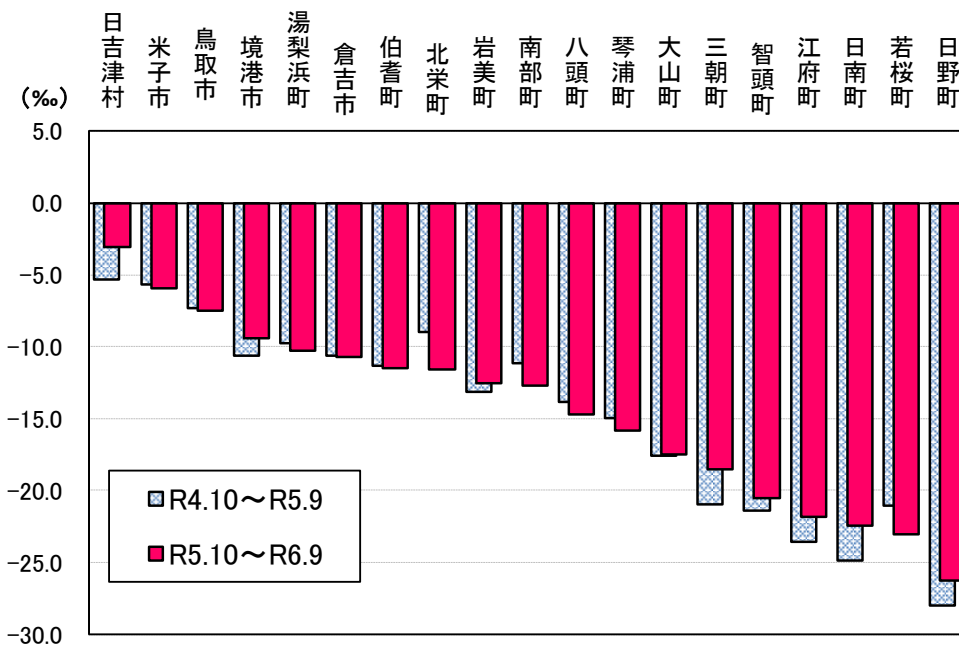
（図15-1、図15-2、統計表第11表）

図15-1 市町村別自然増減数



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

図15-2 市町村別自然増減率



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

(2) 男女別自然動態

男性は、出生数・死亡数とも鳥取市が最多

女性は、出生数は米子市、死亡数は鳥取市が最多

市町村別の男女別をみると、男性の出生数は鳥取市の545人が最も多く、次いで米子市の538人、倉吉市の130人、境港市の102人であった。死亡数は鳥取市の1,164人が最も多く、次いで米子市の970人、倉吉市の350人、境港市の240人であった。

女性の出生数は米子市の503人が最も多く、次いで鳥取市の480人、倉吉市の123人、境港市の90人であった。死亡数は鳥取市の1,238人が最も多く、次いで米子市の926人、倉吉市の381人、境港市の252人であった。

また、最も少なかった出生数は、男性では日野町の3人、女性では江府町の2人、死亡数は、男性では日吉津村の15人、女性では日吉津村の24人であった。

(表6、統計表第11表)

表6 市町村別男女別自然動態

(単位:人)

市町村	実数(人)								
	自然増減			出生			死亡		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
県計	-4,931	-2,302	-2,629	3,125	1,627	1,498	8,056	3,929	4,127
市計	-3,010	-1,409	-1,601	2,511	1,315	1,196	5,521	2,724	2,797
郡計	-1,921	-893	-1,028	614	312	302	2,535	1,205	1,330
東部地区	-1,909	-864	-1,045	1,156	616	540	3,065	1,480	1,585
中部地区	-1,149	-532	-617	513	255	258	1,662	787	875
西部地区	-1,873	-906	-967	1,456	756	700	3,329	1,662	1,667
鳥取市	-1,377	-619	-758	1,025	545	480	2,402	1,164	1,238
米子市	-855	-432	-423	1,041	538	503	1,896	970	926
倉吉市	-478	-220	-258	253	130	123	731	350	381
境港市	-300	-138	-162	192	102	90	492	240	252
岩美郡	-130	-67	-63	51	25	26	181	92	89
岩美町	-130	-67	-63	51	25	26	181	92	89
八頭郡	-402	-178	-224	80	46	34	482	224	258
若桜町	-59	-30	-29	7	4	3	66	34	32
智頭町	-122	-53	-69	15	6	9	137	59	78
八頭町	-221	-95	-126	58	36	22	279	131	148
東伯郡	-671	-312	-359	260	125	135	931	437	494
三朝町	-105	-48	-57	17	4	13	122	52	70
湯梨浜町	-161	-78	-83	112	52	60	273	130	143
琴浦町	-245	-115	-130	66	37	29	311	152	159
北栄町	-160	-71	-89	65	32	33	225	103	122
西伯郡	-509	-235	-274	191	99	92	700	334	366
日吉津村	-11	-1	-10	28	14	14	39	15	24
大山町	-254	-116	-138	74	39	35	328	155	173
南部町	-127	-69	-58	38	16	22	165	85	80
伯耆町	-117	-49	-68	51	30	21	168	79	89
日野郡	-209	-101	-108	32	17	15	241	118	123
日南町	-86	-41	-45	18	8	10	104	49	55
日野町	-70	-34	-36	6	3	3	76	37	39
江府町	-53	-26	-27	8	6	2	61	32	29

3 社会動態

(1) 市町村別社会動態

社会増減は4市町で増加し、15市町村で減少

社会増減を市町村別にみると、境港市87人、江府町11人、智頭町8人、岩美町7人の4市町で増加し、15市町村で減少した。

増加したのは境港市の87人（男性36人、女性51人）が最も増加し、次いで江府町の11人（男性8人、女性3人）であった。減少したのは鳥取市の548人（男性328人、女性220人）が最も減少し、次いで米子市の262人（男性113人、女性149人）であった。

社会増減率（対1,000人比）をみると、最も増加したのは江府町の4.54‰で、次いで境港市の2.74‰、智頭町の1.35‰、岩美町の0.67‰となり、その他の市町村は減少した。最も減少したのは日野町の15.00‰、次いで日南町の9.14‰であった。

（図16-1、図16-2、表7、統計表第12表、第15表）

図16-1 市町村別社会増減数

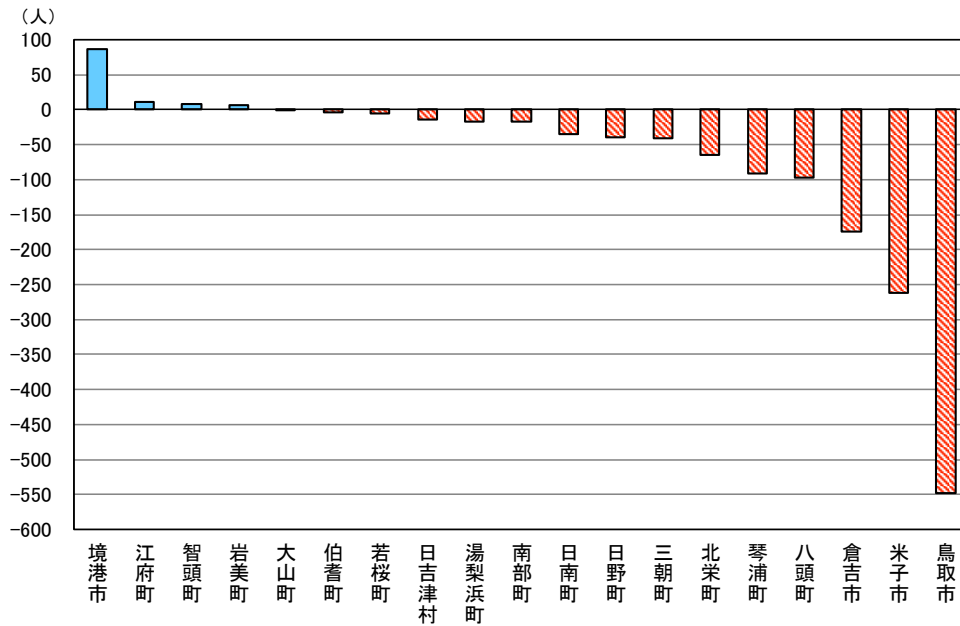


図16-2 市町村別社会増減率

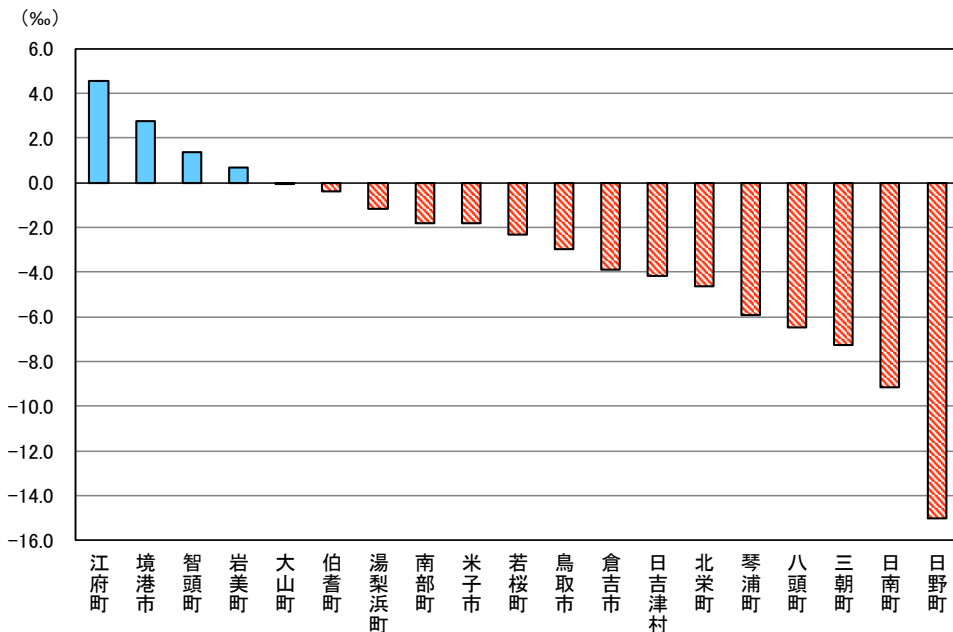


表7 市町村別社会動態

(単位：人)

	県外			県内			社会増減数
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数	
県計	9,616	10,918	-1,302	5,241	5,241	0	-1,302
東部地区	3,691	4,153	-462	1,462	1,636	-174	-636
中部地区	1,193	1,566	-373	1,320	1,336	-16	-389
西部地区	4,732	5,199	-467	2,459	2,269	190	-277
鳥取市	3,238	3,684	-446	1,066	1,168	-102	-548
米子市	3,358	3,789	-431	1,417	1,248	169	-262
倉吉市	583	776	-193	608	589	19	-174
境港市	800	733	67	333	313	20	87
岩美町	158	149	9	137	139	-2	7
若桜町	34	27	7	29	42	-13	-6
智頭町	130	104	26	63	81	-18	8
八頭町	131	189	-58	167	206	-39	-97
三朝町	48	84	-36	55	60	-5	-41
湯梨浜町	149	231	-82	344	280	64	-18
琴浦町	275	288	-13	133	212	-79	-92
北栄町	138	187	-49	180	195	-15	-64
日吉津村	63	73	-10	86	91	-5	-15
大山町	176	187	-11	182	172	10	-1
南部町	113	166	-53	170	135	35	-18
伯耆町	94	139	-45	180	139	41	-4
日南町	48	47	1	31	67	-36	-35
日野町	35	35	0	21	61	-40	-40
江府町	45	30	15	39	43	-4	11

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス(－)の場合は、転出超過を示す。

注2) 地区別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地区内市町村間の移動者を含む。

(2) 県内移動

県内移動で最も多いのは鳥取市から米子市への424人

県内移動をみると、鳥取市から米子市への424人(男性256人、女性168人)が最も多く、次いで米子市から鳥取市への313人(男性174人、女性139人)であった。

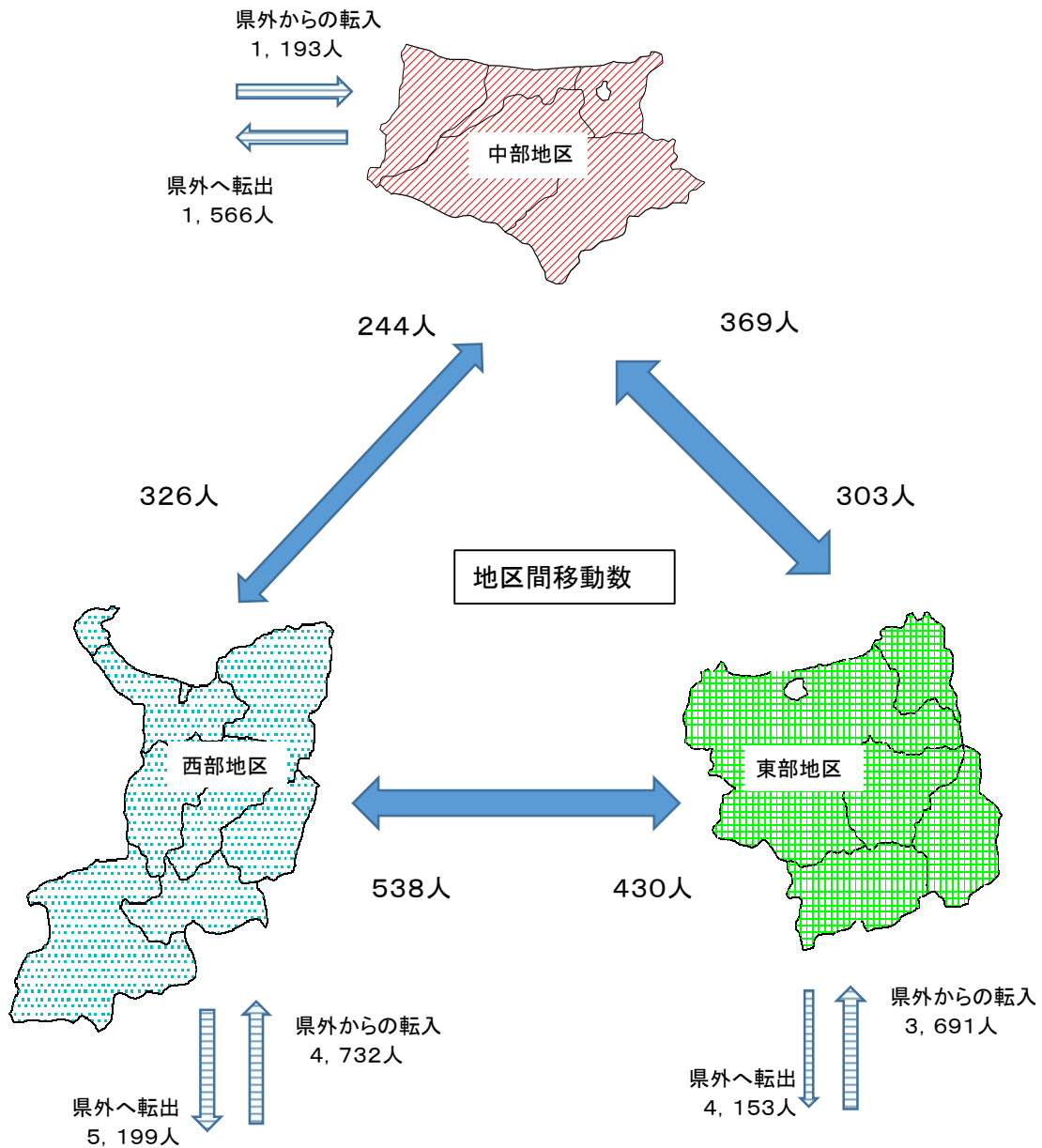
県内移動での転入超過は、米子市の169人(男性89人、女性80人)が最も多く、次いで湯梨浜町の64人(男性31人、女性33人)であった。

転出超過は、鳥取市の102人(男性78人、女性24人)が最も多く、次いで琴浦町の79人(男性23人、女性56人)であった。

また、県内移動を地域区分別にみると、東部から西部への538人(男性321人、女性217人)が最も多く、次いで西部から東部への430人(男性238人、女性192人)、東部から中部への369人(男性194人、女性175人)であった。

(図17、統計表第13表)

図17 地域別社会動態(R5年10月～R6年9月)



県外との社会動態(県全体)

県外へ転出 10,918人
 県外からの転入 9,616人

注) 地区間移動数は、地区内市町村間の移動者を含まない。

(3) 県外転入・県外転出

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への681人
 県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への578人

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への681人(男性347人、女性334人)で、次いで外国から鳥取市への533人(男性230人、女性303人)であった。

また、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への578人(男性316人、女性262人)、次いで鳥取市から大阪府への504人(男性262人、女性242人)であった。

転入・転出超過数をみると、転入超過は、境港市の67人(男性29人、女性38人)が最も多く、次いで智頭町の26人(男性1人、女性25人)であった。

転出超過は、鳥取市の 446 人（男性 250 人、女性 196 人）が最も多く、次いで米子市の 431 人（男性 202 人、女性 229 人）であった。

また、県外転入・県外転出を地域区分別にみると、県外転入者については東部では外国から 667 人（男性 287 人、女性 380 人）が最も多く、次いで兵庫県から 414 人（男性 223 人、女性 191 人）、中部では外国から 258 人（男性 95 人、女性 163 人）が最も多く、次いで大阪府から 142 人（男性 80 人、女性 62 人）、西部では島根県から 891 人（男性 450 人、女性 441 人）が最も多く、次いで外国から 506 人（男性 198 人、女性 308 人）であった。

県外転出者については東部では大阪府へ 580 人（男性 298 人、女性 282 人）が最も多く、次いで兵庫県へ 496 人（男性 246 人、女性 250 人）、中部では大阪府へ 200 人（男性 102 人、女性 98 人）が最も多く、次いで外国へ 176 人（男性 64 人、女性 112 人）、西部では島根県へ 760 人（男性 411 人、女性 349 人）が最も多く、次いで大阪府へ 514 人（男性 232 人、女性 282 人）であった。

（表 8、統計表第 14 表）

表 8 都道府県別(外国を含む)県外転入・転出者数(上位市町村)

(単位:人)

都道府県	転入					転出				
	総数	鳥取市	米子市	琴浦町	その他	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他
外国	1,431	533	315	131	452	915	340	177	83	315
島根県	1,181	681	199	128	173	1,088	578	205	95	210
大阪府	915	357	275	58	225	1,294	504	373	89	328
岡山県	773	295	265	68	145	873	308	301	102	162
兵庫県	759	350	208	39	162	984	429	259	79	217
広島県	673	273	220	55	125	750	321	268	44	117
東京都	636	244	194	49	149	1,020	368	349	68	235

(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入転出

県外転入者、県外転出者とも 20～24 歳が最も多い

【鳥取市】

県外転入者は、20～24 歳の 753 人（男性 434 人、女性 319 人：県全体の県外転入者総数に占める割合 7.8%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 513 人（男性 256 人、女性 257 人：同 5.3%）であった。

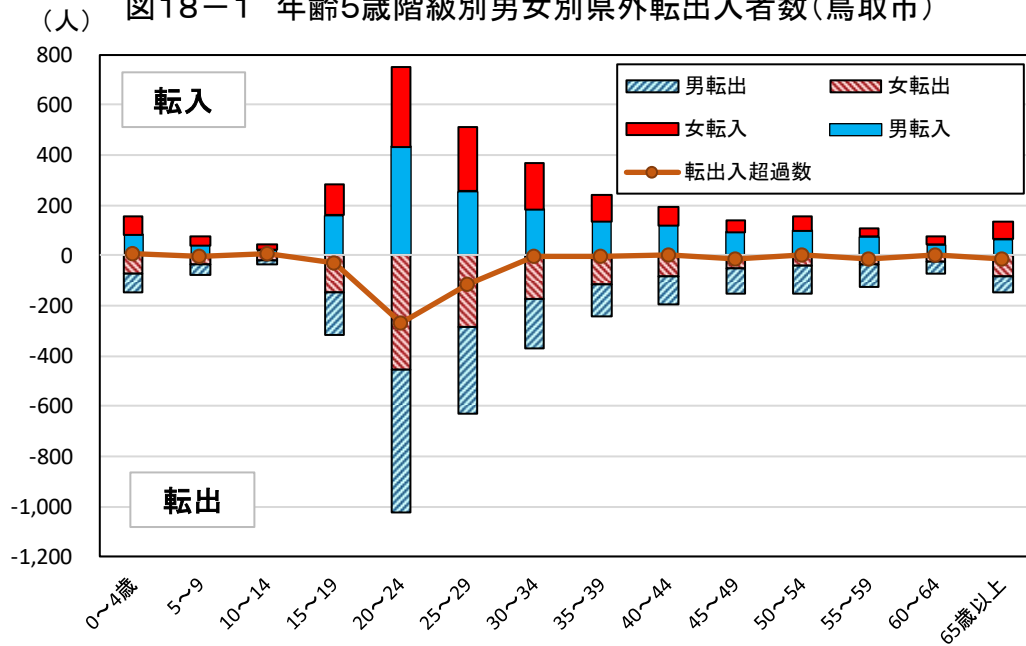
県外転出者は、20～24 歳の 1,021 人（男性 564 人、女性 457 人：県全体の県外転出者総数に占める割合 9.4%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 629 人（男性 342 人、女性 287 人：同 5.8%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、0～4 歳及び 10～14 歳（各歳とも男性 6 人、女性 2 人）の 8 人が最も多く、次いで 50～54 歳（男性-12 人、女性 14 人）及び 60～64 歳（男性-2 人、女性 4 人）の 2 人であった。

転出超過数は、20～24 歳の 268 人（男性 130 人、女性 138 人）が最も多く、次いで 25～29 歳の 116 人（男性 86 人、女性 30 人）であった。

（図 18-1、統計表第 15 表）

図18-1 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(鳥取市)



【米子市】

県外転入者は、20～24歳の688人（男性384人、女性304人：同7.2%）が最も多く、次いで25～29歳の585人（男性303人、女性282人：同6.1%）であった。

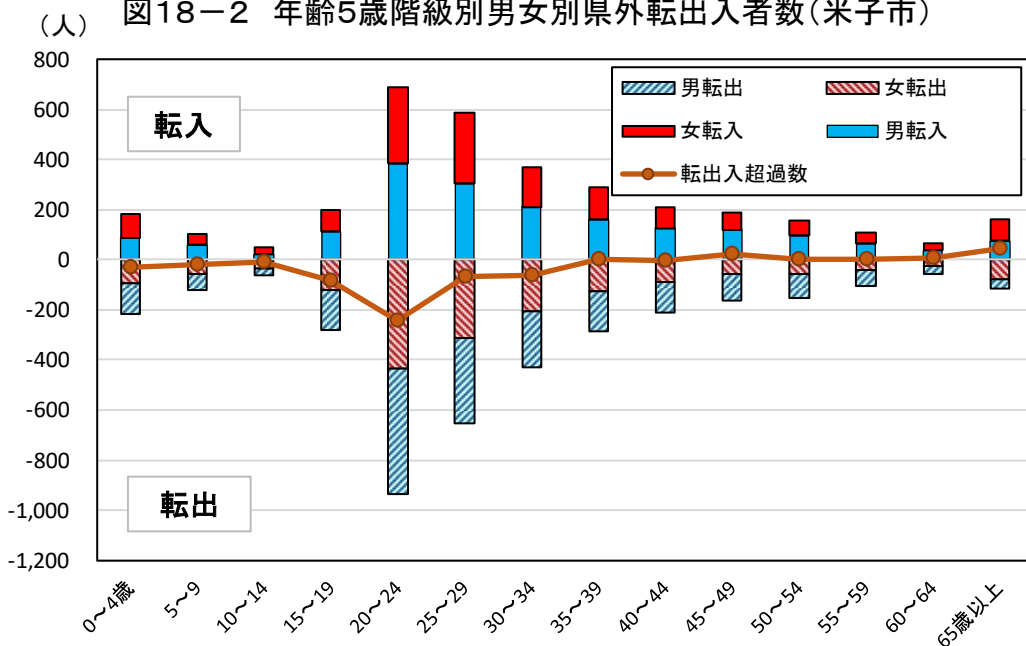
県外転出者は、20～24歳の933人（男性500人、女性433人：同8.5%）が最も多く、次いで25～29歳の651人（男性339人、女性312人：同6.0%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、65歳以上の45人（男性36人、女性9人）が最も多く、次いで45～49歳の24人（男性15人、女性9人）であった。

転出超過数は、20～24歳の245人（男性116人、女性129人）が最も多く、次いで15～19歳の85人（男性50人、女性35人）であった。

(図18-2、統計表第15表)

図18-2 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(米子市)



【倉吉市】

県外転入者は、20～24歳の114人（男性57人、女性57人：同1.2%）が最も多く、次いで25～29歳の111人（男性59人、女性52人：同1.2%）であった。

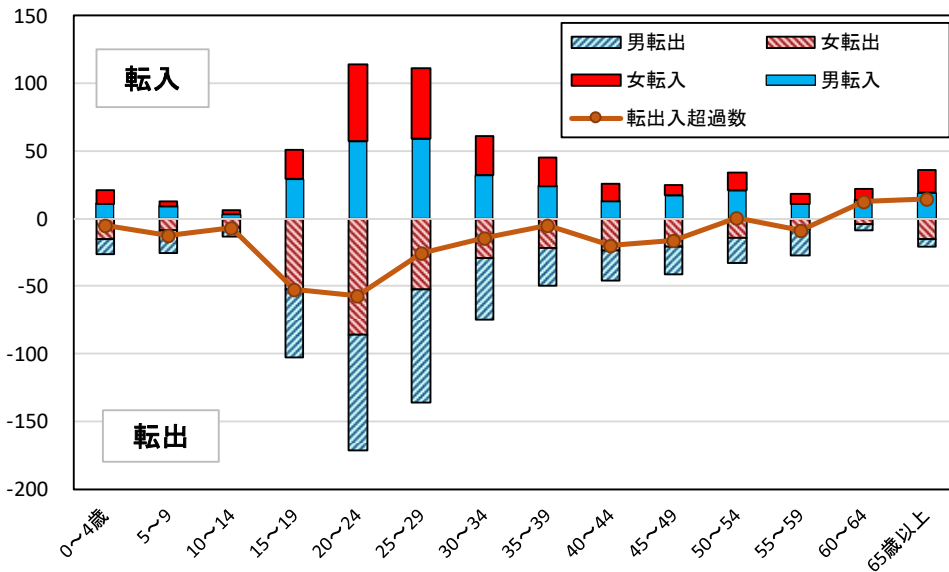
県外転出者は、20～24歳の171人（男性85人、女性86人：同1.6%）が最も多く、次いで25～29歳の136人（男性84人、女性52人：同1.2%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、65歳以上の15人（男性13人、女性2人）が最も多く、次いで60～64歳の13人（男性9人、女性4人）であった。

転出超過数は、20～24歳の57人（男性28人、女性29人）が最も多く、次いで15～19歳の52人（男性22人、女性30人）であった。

（図18-3、統計表第15表）

（人） 図18-3 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(倉吉市)



【境港市】

県外転入者は、20～24歳の169人（男性86人、女性83人：同1.8%）が最も多く、次いで25～29歳の150人（男性83人、女性67人：同1.6%）であった。

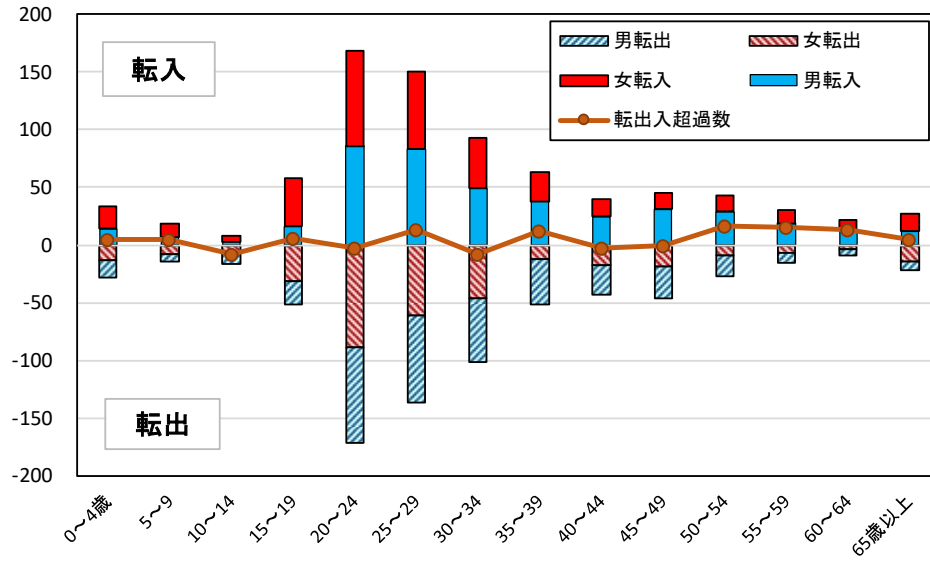
県外転出者は、20～24歳の172人（男性83人、女性89人：同1.6%）が最も多く、次いで25～29歳の137人（男性76人、女性61人：同1.3%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、50～54歳の16人（男性11人、女性5人）が最も多く、次いで55～59歳の15人（男性11人、女性4人）であった。

転出超過数は、10～14歳及び30～34歳（各歳とも男性6人、女性2人）の8人が最も多く、次いで20～24歳（男性-3人、女性6人）及び40～44歳（男性1人、女性2人）の3人であった。

（図18-4、統計表第15表）

(人) 图18-4 年龄5岁阶段别男女别県外転出入者数(境港市)



<参考> 外国人の人口動態

1 自然動態

- ・出生数は15人（男性7人、女性8人）
- ・死亡数は13人（男性6人、女性7人）（表10）

表10 自然動態(外国人)

月次	出生			死亡		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	15	7	8	13	6	7
10月	2	0	2	0	0	0
11月	0	0	0	1	0	1
12月	1	1	0	1	0	1
1月	0	0	0	1	1	0
2月	2	1	1	1	0	1
3月	3	2	1	1	0	1
4月	2	1	1	2	1	1
5月	1	1	0	2	1	1
6月	0	0	0	1	1	0
7月	0	0	0	2	1	1
8月	1	0	1	1	1	0
9月	3	1	2	0	0	0

2 社会動態

(1) 県内移動

- ・県内移動者数は122人（男性48人、女性74人）
- ・転入が最も多いのは米子市の29人（男性15人、女性14人）
- ・転入超過数は、倉吉市の15人（男性4人、女性11人）が最も多く、転出超過数は、琴浦町の23人（男性1人、女性22人）が最も多い。

(2) 県外転入・県外転出

- ・県外転入者数は1,908人（男性894人、女性1,014人）で、県外転出者数は1,368人（男性654人、女性714人）
- ・県外転入者数で最も多いのは、鳥取市の645人（男性338人、女性307人）で、次いで米子市の462人（男性229人、女性233人）
- ・県外転出者数で最も多いのは、鳥取市の454人（男性240人、女性214人）で、次いで米子市の320人（男性166人、女性154人）
- ・転入超過数は、鳥取市の191人（男性98人、女性93人）が最も多く、転出超過数は、八頭町（男性-3人、女性13人）及び北栄町（男性-1人、女性11人）の10人が最も多い。（表11）

表11 市町村別社会動態(外国人)

	県外							県内							社会増減数
	転入者数			転出者数			転入超過数	転入者数			転出者数			転入超過数	
	総数	男	女	総数	男	女		総数	男	女	総数	男	女		
県計	1,908	894	1,014	1,368	654	714	540	122	48	74	122	48	74	0	540
東部地区	783	396	387	552	280	272	231	37	13	24	33	19	14	4	235
中部地区	314	137	177	273	117	156	41	39	14	25	45	10	35	-6	35
西部地区	811	361	450	543	257	286	268	46	21	25	44	19	25	2	270
鳥取市	645	338	307	454	240	214	191	21	6	15	27	17	10	-6	185
米子市	462	229	233	320	166	154	142	29	15	14	22	9	13	7	149
倉吉市	106	57	49	76	45	31	30	25	10	15	10	6	4	15	45
境港市	204	70	134	115	40	75	89	10	5	5	5	3	2	5	94
岩美町	55	28	27	35	19	16	20	10	3	7	0	0	0	10	30
若桜町	8	2	6	12	1	11	-4	2	0	2	1	1	0	1	-3
智頭町	62	20	42	28	15	13	34	3	3	0	4	0	4	-1	33
八頭町	13	8	5	23	5	18	-10	1	1	0	1	1	0	0	-10
三朝町	17	13	4	17	5	12	0	1	0	1	2	1	1	-1	-1
湯梨浜町	27	12	15	31	12	19	-4	4	0	4	0	0	0	4	0
琴浦町	136	47	89	111	48	63	25	5	2	3	28	3	25	-23	2
北栄町	28	8	20	38	7	31	-10	4	2	2	5	0	5	-1	-11
日吉津村	1	1	0	3	2	1	-2	1	0	1	0	0	0	1	-1
大山町	79	30	49	64	19	45	15	3	0	3	10	6	4	-7	8
南部町	33	14	19	30	22	8	3	2	0	2	1	0	1	1	4
伯耆町	11	8	3	4	3	1	7	1	1	0	2	0	2	-1	6
日南町	11	9	2	5	5	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6
日野町	4	0	4	0	0	0	4	0	0	0	4	1	3	-4	0
江府町	6	0	6	2	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	4

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス（-）の場合は、転出超過を示す。

注2) 地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。